

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 安藤 由美 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義では、受講生の主体的参加を促す。 ・演習では、履修生に対する個別面談・指導を充実させる。 ・WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させる。 ・研究業績の授業への反映させる。 ・修論指導。 | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習ともに、WebClassシステムを活用して、学生への情報提供、授業外学修の確保、成績資料の開示などを充実させ、学生の主体的参加を促した。 ・演習における個別面談・指導については回数が十分に確保できず課題を残したといえる。 ・研究業績は授業に反映させるよう務めた。 | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の家族変動についての実証分析と論文執筆 ・戦争体験ライフストーリーの分析と論文執筆 | | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の家族変動についての実証分析のための理論的枠組と方法の考究を行ったが、成果を出すには至っていない、もう少し時間を要する。 ・戦争体験ライフストーリーの分析作業に着手した。まだ論文を執筆できる段階には達していない。 | |
| 社会 貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会学会編集委員会委員 ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会学会編集委員会委員 ・日本家族社会学会、日本家族問題研究学会それぞれの編集委員会専門委員 ・沖縄県立看護大学倫理審査専門部会委員としての活動 ・公益法人沖縄協会の沖縄研究奨励賞選考委員 | |
| 管理 運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部改組関係委員としての活動 ・学部内各種委員としての貢献(教育委員会委員) | | 0.25 | <ul style="list-style-type: none"> ・学部改組関係委員としての活動 ・法文学部入学試験委員長 ・法文学部教育委員 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 本村 真 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.25 | 学部教育においては専門科目(児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文)を担当する。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得させる方法の向上を目指す。大学院においては児童福祉を主たるテーマとする院生への研究支援を講義やゼミにおいて行う。 | | 0.25 | 専門科目(児童福祉論、ソーシャルワーク論、地域福祉演習、卒業論文等)を担当した。各講義やゼミにおいて、学生の主体的参加を促す方法やコミュニケーションスキル等の専門スキルを習得を目指した工夫を行った。また現場実習の受け入れをスムーズに行ってもらうための関連施設における研修(スーパーバイズ研修等を含む)を担当し、福祉関連会議への対応にも時間を割くと共に、大学院生の教育にも時間を割いた。 | |
| 研究 | 0.25 | 採択されている科研費(挑戦的萌芽研究)による研究実施を通して、島嶼地域の児童養護施設職員のストレスマネジメントシステム構築に向けた研究を推進する。国際沖縄研究所と共同で法文学部が実施する概算要求研究プロジェクトにおいて実践研究のとりまとめとして尽力するとともに、国際沖縄研究所の共同研究の連携教員として、人文・社会科学分野を中心とした共同研究の実施体制の構築を模索する。 | | 0.20 | 採択されている科研費(挑戦的萌芽研究)による研究実施を通して、島嶼地域の児童養護施設職員のストレスマネジメントシステム構築に向けた研究をとして石垣市における実践研究型研修会を実施した。また、国際沖縄研究所と共同で法文学部が実施する概算要求研究プロジェクトにおいて島嶼地域の活性化に向けた実践研究として、全国の島嶼地域出身の学生を対象とする研修会を那覇市において実施予定である(3月)。 | |
| 社会貢献 | 0.20 | 上記の概算要求プロジェクトによるシンポジウムや合宿形式の研修会を実施することで、研究成果の地域社会への貢献をはかる。加えて、沖縄県の子どもの貧困に関連する有識者会議等への参加や、児童養護施設等におけるスーパービジョン、市町村にける各種支援活動への参加、子どもの居場所学生ボランティアセンター運営(センター長)等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与する。 | | 0.20 | 上記の概算要求プロジェクトによるシンポジウムや合宿形式の研修会を実施することで、研究成果の地域社会への貢献をはかった。加えて、沖縄県の子どもの貧困に関連する有識者会議等への参加や、児童養護施設および2市町の要保護児童対策地域協議会におけるスーパービジョン活動実施、子どもの居場所学生ボランティアセンター運営(センター長)等を通して、地域社会の課題解決のためのシステム作りに寄与した。 | |
| 管理運営 | 0.30 | 学長補佐(研究担当)として大学院改組や研究推進機構運営、関連タスクフォース活動、産官学連携推進機構関連活動、琉球大学コミュニティキャンパス事業等の全学的な取り組みにたずさわる。加えて、大学コンソーシアムにおいて設置されている「子どもの居場所学生ボランティアセンター」の運営にも関与する。法文学部内においては「将来計画委員会」や「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む委員会活動等に積極的に参加する。 | | 0.35 | 学長補佐(研究担当)として研究推進機構や関連タスクフォースに参加し、新たな人文社会系の新研究科設置に向けてのWGのとりまとめ役をこなした。学部委員として産官学連携推進機構等の全学的な取り組みにたずさわって、大学コンソーシアムにおいて設置する「子どもの居場所学生ボランティアセンター」においてセンター長として個別対応を含めた管理運営にも関与した。法文学部内においては「将来計画委員会」において学部改組のための作業に関わると共に、「地域貢献委員会」、その他入試関連業務を含む委員会活動等に積極的に参加した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 鈴木 規之 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.50 | 国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、アジア社会学特論・演習(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行う。とくに、修士2年次、博士課程の留学生に対する指導を十分に行う。さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行う。 | | 0.50 | 国際比較社会学Ⅰ・Ⅱ、社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(以上学部)、国際社会学特論・演習(修士)、アジア社会学特論・演習(博士)等、3つのレベルの講義・演習を滞りなく行った。とくに、修士2年次、博士課程の留学生に対する指導を十分に行った。さらに、学部のゼミ受講生、修士課程の学生、博士課程の学生に対する進路指導を行った。 | |
| 研究 | 0.25 | 平成27年度に採択された文科省科研費(C)「ホスト社会沖縄と日系人-文化資本に基づくネットワークとその継承-」の研究を行う。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)海外「東北タイの開発と市民社会形成—公共圏・社会関係資本・プラチャーコム—」の研究成果を国際学会で発表し、その成果を発展させて、平成30年度からの新規の科研費などの獲得をめざす。 | | 0.25 | 平成27年度に採択された文科省科研費(C)「ホスト社会沖縄と日系人-文化資本に基づくネットワークとその継承-」の研究を完了させた。また、平成26年度まで研究代表者をつとめた文科省科研費(B)海外「東北タイの開発と市民社会形成—公共圏・社会関係資本・プラチャーコム—」の研究成果を第13回国際タイ研究集会で発表した。 | |
| 社会貢献 | 0.05 | タイ・ラオスに対する国際貢献を行う。タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授としても国際貢献を行う。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たす。 | | 0.05 | タイ・ラオスに対する国際貢献を行った。タイについては、2つの大学(コンケン大学、ウドンタニラジャパット大学)の客員教授としても国際貢献を行った。また、タイ・ラオスについては、留学生の受入れ、派遣についてプログラムリーダーとしての役割を果たした。 | |
| 管理運営 | 0.20 | 社会学専攻主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行う。また、全学の国際教育専門委員会および国際連携担当者連絡会委員として管理運営に参加する。 | | 0.20 | 社会学専攻主任、法文学部国際交流委員長として学部内の運営業務を行った。また、全学の国際教育専門委員会および国際連携担当者連絡会委員として管理運営に参加した。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 鈴木 良 | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・複眼的な視点を養成するため社会福祉学と共に、人文社会科学の視点から授業を行う ・生活問題解決力を養成するため、生活問題に関わる具体的事例を検討する授業を行う ・講義授業でもグループディスカッションや学生の発表を取り入れ、対話型の授業を行う。 ・近年の日本及び海外の調査研究の成果を授業内容に反映させる。 ・実習・演習において学生の個々の目標到達に向けて個別指導を重視する。 ・社会福祉士国家試験対策についての問い合わせに対しては積極的に対応する。 ・社会福祉現場での就職相談があれば丁寧に対応する。 | | | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉関連制度の諸課題について社会学や障害学など幅広い見地からの解説と議論を行った。 ・社会福祉士演習・実習指導科目だけではなく講義科目においても事例のアセスメントを重視した。 ・演習科目だけではなく講義科目でも学生間の議論と学生による発表を取り入れ対話型の授業を行った。 ・研究の成果である障害者の地域生活や相談援助の実際を紹介し、学生と共に検討した。 ・演習・実習では個々の学生の特徴や関心に応じて自らの問題関心を掘り下げられるように助言した。 ・社会福祉士国家試験に向けての特別講義を開催したり、適宜相談に応じたりして、積極的に対応した。 ・福祉事務所でのケースワークやNPO法人での仕事のメリット・デメリットについて学生に説明をした。 ・障害学生支援に従事した。 | | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会福祉学会あるいは障害学会へ査読付き論文の投稿 ・日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員の継続 ・パーソナルアシスタンス研究会における研究発表 ・科学研究費助成事業(若手研究B)における研究の遂行のため北海道及びカナダにおけるフィールドワーク調査を実施する。 ・科学研究費助成事業(基盤研究C)における研究遂行のためスウェーデンの調査を実施する。 | | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本社会福祉学会及び障害学会の学会誌において査読付き論文の掲載が決定した。 ・日本社会福祉学会の学会誌『社会福祉学』の査読委員として論文の査読を行った。 ・パーソナルアシスタンス研究会における研究発表を実施し、当研究会で書籍を出版した。 ・科学研究費助成事業(若手研究B)における研究の遂行のため北海道におけるフィールドワーク調査を実施した。 ・科学研究費助成事業(基盤研究C)における研究遂行のためスウェーデンの調査を実施した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立生活センターイルカとの協働と障害学生支援室との協働によるフォーラムの開催 ・沖縄県社会福祉法人わたたけ福祉会の評議員として活動 ・NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターへの連載 ・沖縄県社会福祉協議会の評議員などとして活動 ・県民への障害者の権利についての啓発活動を行う。 | | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立生活センターイルカとの協働と障害学生支援室との協働によるフォーラムを開催し、県民への障害者の権利についての啓発活動を行った。 ・NGO地に平和のメンバーとしてニュースレターにおいて沖縄や福祉のテーマを中心に掲載を継続した。 ・沖縄県社会福祉協議会の評議員として活動した。 ・沖縄県社会福祉法人わかたけ福祉会の評議員として活動した。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学及び学部内の各種委員会の委員としての役割を適切に遂行する。とりわけ障害学生支援室における兼務教員として学内における障害学生支援の推進のために尽力する ・専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献する。 ・所定の入試関連業務を遂行する。 ・社会福祉士実習関連業務を適切に遂行する。 | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学及び学部内の各種委員会の委員、及び障害学生支援室の兼務教員として活動を積極的に行った。 ・専攻会議や教授会など参加が求められる会議は可能な限り出席し大学運営に貢献した。 ・所定の入試関連業務を遂行した。 ・厚生労働省への変更届の提出など社会福祉士実習関連業務を適切に遂行した。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 野入 直美 | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|--|---|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 社会学研究XVI(比較社会学Ⅱ)と社会学研究XVI(働くこととつながることの社会学Ⅳ)では、大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁」地域志向教育推進経費を活用し、学生たちが留学生との協働によって沖縄の産業情報を海外に多言語発信するプロジェクトを、企業とのコラボで実施する。 | | | 0.30 | 社会学研究XVI(比較社会学Ⅱ)と社会学研究XVI(働くこととつながることの社会学Ⅳ)では、大学COC事業「ちゅら島の未来を創る知の津梁」地域志向教育推進経費を活用し、学生たちが留学生との協働によって沖縄の産業情報を海外に多言語発信するプロジェクトを、企業とのコラボで実施した。 | | |
| 研究 | 0.40 | 科科研基盤(C)代表者として研究を統括する。その他の科研の分担者として研究を遂行する。『思想』台湾特集に伊野田開拓移民とパイナップルの論文を寄稿する。 | | | 0.40 | 科科研基盤(C)代表者として研究を統括する。その他の科研の分担者として研究を遂行する。『思想』台湾特集(2017年7月号)に「パイナップルと開拓移民」を寄稿した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援する。沖縄県による補助事業を統括する。 | | | 0.20 | NPOアメラジアンスクール・イン・オキナワの理事として、アメラジアンの子どもの教育権保障を支援した。沖縄県による補助事業を統括した。 | | |
| 管理 運営 | 0.10 | セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の予防と発生後の対応に取り組む。 | | | 0.10 | セクシャル・ハラスメント対策委員として問題の予防と発生後の対応に取り組んだ。 | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 浜崎 盛康 | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.25 | 学部長として管理運営にウェイトをおくため、授業を減らし学生支援はゼミ等で学生の相談を行う。 | | 0.25 | 学部長として管理運営にウェイトをおき、授業を減らし学生支援はゼミ等で学生の相談を行った。 | | | |
| 研究 | 0.25 | 学部長として管理運営にウェイトをおくため、研究は科研の分担者としての役割と、これまでの研究のまとめを中心に行う。 | | 0.25 | 学部長として管理運営にウェイトをおき、研究は科研の分担者としての役割と、これまでの研究のまとめを中心に行った。同時に、コンピテンシーとアイデンティティに関連する新しい研究テーマへも管理運営に支障のない範囲で着手した。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.00 | 今年度は直接的な社会貢献は控える。 | | 0.00 | 今年度は直接的な社会貢献は控えた。 | | | |
| 管理 運営 | 0.50 | 学部長として、管理運営に適切に当たる。特に今年度は学部改組の道筋を付けることを目標とする。 | | 0.50 | 学部長として、管理運営に適切に当たった。特に今年度は学部改組の道筋を付け、平成30年4月からの新学部をスタートさせることとなった。 | | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 寺石 悦章 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.60 | 新たな授業内容の準備はもちろんだが、前年度から継続している授業についても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行う。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、ゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行う。 | | 0.60 | 新たな授業内容の準備はもちろんだが、前年度から継続している授業についても学生の関心やニーズを考慮し、よりわかりやすく効果的な授業にするため、十分な時間をかけて準備を行った。また年次指導教員として担当学年の学生たちに、ゼミの指導教員としてゼミの学生たちに対し、就職指導・進路指導等を積極的に行った。 | |
| 研究 | 0.20 | 研究論文を1本以上執筆する。研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆するため、数年かけて基礎的な研究を行う。 | | 0.20 | 研究論文を2本執筆した。研究成果を活用する形で授業用の教科書を執筆した。 | |
| 社会 貢献 | 0.15 | 教員免許更新講習の講座を行う。また地域の方々のニーズに応じて毎週行っている勉強会を継続する。 | | 0.15 | 教員免許更新講習の講座を行った。また地域の方々のニーズに応じた勉強会を毎週行った。 | |
| 管理 運営 | 0.05 | 学科長・教育委員・自己点検委員などの業務を適切に遂行する。 | | 0.05 | 学科長・教育委員・自己点検委員などの業務を適切に遂行した。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 田中 寛二 | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|-----|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当授業について、シラバスに記載した目標を達成するように努力する。 ・オフィス・アワーを活用を促すなどし、個別的に教育目標の達成を促進する。 ・授業の毎回の理解の程度を確認し、復習を促すために、不定期に小テストを行う。 | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当授業について、シラバスに記載した目標を達成するように努力した。 ・オフィス・アワーを活用を促すなどし、個別的に教育目標の達成を促したが、オフィス・アワーの活用はほとんどなかった。しかし、授業の直後に教室で個別の質問に応じるなど、可能な限り教育目標が達成できるように配慮した。 ・授業の毎回の理解の程度を確認し、復習を促すために、小テストを行ったが、回数が少なかったかもしれない。 | | | |
| 研究 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・DV加害者カウンセリングに関する基礎的な文献を継続的に講読する。 ・DV加害者カウンセリングに関する知見を得るために、調査を行い、その統計分析を行い、論文執筆に資する資料を作成する。 ・DV関連の論文を執筆し、関連学会へ投稿する。 | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・DV加害者カウンセリングに関する基礎的な文献を継続的に講読した。 ・DV加害者カウンセリングに関する知見を得るための調査は行えなかったが、DV加害者を対象とした聞き取り調査は行えた。 | | | |
| 社会 貢献 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県DV加害者更生相談嘱託相談員としての仕事を行う。 ・沖縄刑務所において処遇カウンセラー(薬物離脱担当)として受刑者へのカウンセリングを行う。 | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県DV加害者更生相談嘱託相談員としての仕事を定期的に行った。 ・沖縄刑務所において処遇カウンセラー(薬物離脱担当)として受刑者へのカウンセリングを行った。 | | | |
| 管理 運営 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センター就職指導セクション長としての仕事を行う。 ・ハラスメント相談支援センターの相談にとしての仕事を行う。 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援センター就職指導セクション長としての仕事を行った。 ・ハラスメント相談支援センターの相談にとしての仕事を行った。 | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|--|-----|--|--------------------------------------|--|---------------------------------------|--|----|--|
| 名 前 | | 畠中 雄平 | | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | | 職 名 | | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・1年次学生の指導教員として、学生が不安なく大学生活をスタートできるような支援を行う。 ・精神医学や臨床心理学等の講義や演習・実習において30年にわたる臨床経験を生かした、臨床の現場が学生に実感を持ってイメージできるような取り組みを行う。 ・主に大学院の授業において、国際標準の臨床心理学のあり方に準拠した内容を提供する。 | | | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員としての対応を適切に行った。 ・授業の中で臨床の現場についての実感が持てるような取り組みを、視覚的教材等を積極的に利用して行った。 ・大学院の授業に関しては、学生の理解の水準を鑑み、より基本的な知識を使えるものとして定着させることに重点を置いて行った。 | | | | |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度科学研究費助成事業研究活動スタート支援及び基盤研究Cに応募する予定。 ・年度前半に国際学術誌に論文投稿の予定あり。 ・日本臨床動作学会理事、研修委員会委員として学会活動に取り組む。 ・スウェーデンヨーテボリ大学サルグレンスカアカデミーの学術博士号(PhD)を今年度中に取得の予定 ・ヨーテボリ大学ギルバーク発達神経精神医学センター、ポルトガルリスボンのCentro Diferencia、及び天理大学体育学部との共同研究。 | | | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度科研費研究活動スタート支援に採択された。 ・国際学術誌に筆頭著者として論文一編を投稿し、採用された。査読付き和文誌に共同執筆者として学術論文一編を発表した。 ・動作学会研修委員として、研修会の講師を2回行った。 ・国際共同研究のため、自費で海外研修に行き、研究協議を行った。 ・天理大学との共同研究の成果については、今年度中に投稿の予定。 ・ヨーテボリ大学の学位審査は、平成30年2月の予定。 ・OISTと琉球病院子ども心療科との共同研究を立ち上げ、定期的に研究協議を実施している。 | | | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県の発達障害臨床に携わる、小児科医、児童精神科医、成人精神科医、臨床心理士等をメンバーとした研究会を立ち上げる。 ・沖縄科学技術大学院大学発達神経生物学ユニットと沖縄県の現場の臨床家の連携を構築する。 ・沖縄県の乳幼児健診に関わる保健師等との勉強会を立ち上げる。 | | | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の研究会を立ち上げ、専門職だけではなく行政の参加も得ることができている。来年度以降も継続していく予定である。この研究会にはOISTの研究者も参加しており、上記の共同研究と合わせて臨床と研究の連携が構築されつつある。また、県小児科医会で発達障害についての講演会を行った。 | | | | |
| 管理 運営 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育後援会学内理事として、事業活動が円滑になされるように努める。 | | | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育後援会における学内理事の役割を遺漏なく行った。 | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | | 1.00 | | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 伊藤 義徳 | 所 属 | | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | | 准教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|--|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.30 | 法文学部人間行動専攻課程の学生, 教育学部心理臨床科学コースの学生双方の教育, 支援を恙なく務める | | | 0.30 | 卒業研究生6名のうち5名が卒業研究を提出した。また, 修士論文生1名が修士論文を提出した。修士論文を執筆した学生が, 人文社会科学研究科修士生の優秀学生代表の表彰を受けることとなった。 | | |
| 研究 | 0.20 | 現在取得している科研費は本年度が最終年度であるため, 総括の作業を進める。 次年度に向けて, 新たな研究課題を申請する。 | | | 0.20 | 本年は, 科研費に関わる2つの研究を行った。 また, 査読付き雑誌に3件, 一般雑誌に3件の論文と, 書評を1件発表した。 | | |
| 社会 貢献 | 0.30 | 日本認知行動療法学会, 日本マインドフルネス学会, 日本感情心理学会で理事(常任理事)の役職を仰せつかっており, それぞれの職を全うする。沖縄県臨床心理士会研修担当理事の職務を遂行する。その他, 依頼される研修等の業務も積極的に引き受ける。 | | | 0.30 | 日本認知行動療法学会, 日本マインドフルネス学会, 日本感情心理学会で理事(常任理事)の役職を全うした。沖縄県臨床心理士会研修担当理事の職務を遂行した。その他, 18件の外部から依頼された研修の講師を引き受けた。 | | |
| 管理 運営 | 0.20 | 法文学部国際貢献及び共同研究推進に関わる委員会, 及び教育学部学生生活委員会の職を全うする。 ハラスメント相談支援センター副センター長の職務を遂行する。 | | | 0.20 | ハラスメント相談支援センター副センター長として業務を全うした。また, 法文学部国際貢献及び共同研究推進に関わる委員会, 及び教育学部学生生活委員会として会議に出席した。 | | |
| | | | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | | 1.00 | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 渡久地 健 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 准教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|---|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生 支援 | 0.70 | (1)授業の充実に努める。そのために下記「研究」にも努める。(2)学生が気軽に相談に来れるような雰囲気作りに努める。 | | 0.60 | インフルエンザに罹って休講した。また科研出張で休講したので、目標達成にはほど遠い。健康管理など反省すべき点が多い。 | |
| 研究 | 0.20 | 現在得ている科研C(研究代表), 科研S(研究分担者)の外部資金を有効に活用し, 論文作成などを確実に作る。 | | 0.20 | ほぼ目標を達成したと考えている。 | |
| 社会 貢献 | 0.05 | 現在, 引き受けている沖縄県自然環境審議会委員, 名護市専門委員の任務を全うする。 | | 0.10 | ほぼ目標を達成したと考えている。 | |
| 管理 運営 | 0.05 | 委員など責任をもって任務を遂行する。教授会, 研究科委員会を無断欠席しない。 | | 0.10 | ほぼ目標を達成したと考えている。 | |
| | | | | | | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 稲村 務 | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育・ 学生支援 | 0.30 | グローバル人材を養成すべく、学生の英語、中国語のスキルを上げ、異文化に対する理解を深めさせる。台湾での実習を含めて、共通教育1コマ、学部専門科目14コマ、博士前期2コマ、大学院博士後期課程2コマを担当する。博士後期課程の学生の論文指導、学部の卒論指導を中心に行う。研究倫理の徹底に努めレポートなどはできるだけ本人に返すようにしている。学生就職率100%を目指す。 | | 0.30 | 授業は例年通り行っており台湾実習など行った。学生は安きに流れるもので、研究倫理の欠如した教員の授業に学生が集まる傾向が強く、学生があまり集まらない状況が続いている。特に引用の仕方などを初年次にきちんと教えようとする、そもそも倫理がないので組織的に妨害する教員が複数いる。退職した教員が悪しき前例となっているので書評で批判しておいた。追々効果があるものと信じている。卒業年次の学生は1名で台湾での調査に基づき卒論を書き、現在進学のため受験準備中である。 | |
| 研究 | 0.30 | 現在国立民族学博物館の科研の分担者であり、東京外国語大学の共同研究員であるが、本年度は科学研究費の取得に努めたい。既提出の論文1(査読)、投稿予定1、紀要論文3、国際誌1、国際学会発表1、国内研究会等発表を予定している。中国、台湾、フィリピン、ラオスの調査を予定している。 | | 0.30 | 共同研究員として研究会に参加し発表を行った。査読論文1、紀要論文1、国際学会発表1、国内学会発表1、書評(国際誌・査読有)を公刊し、3月までに学術誌1、査読論文1、教科書分担1などを執筆中である。台湾の調査や九州での文献調査を行った。親が急逝したために思ったほど研究の時間がとれなかったが、役割は十分果たしたつもりである。特に書評についての評価する声が高かった。 | |
| 社会貢献 | 0.20 | 本年度は特に前年度の知的財産にかかわるシンポジウムの成果を沖縄県鹿児島県の自治体で研究発表を多く行いたいと思っている。台湾実習での国際交流、学会発表、実習報告書、シンポジウム報告書などの成果発表を通じて市民に還元したい。また、英語の論文を執筆することで国際的なアピールに努める。 | | 0.20 | 沖縄県立博物館で国際沖縄研究所主催のシンポジウムの企画・発表を行った。市民向けの琉大史学会でもパネリストとして発表した。台湾実習では現地の方々と国際交流を積極的に行い、フィリピンでの国際学会(Science Council of Asia)でも英語の論文を提出し様々な研究分野の研究者と意見交換を行った。 | |
| 管理運営 | 0.20 | 教育委員、URGCC委員、博士後期課程広報委員 | | 0.20 | 委員としての仕事を行った。 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|--|--|
| 名 前 | 池上 大祐 | | 所 属 | 法文学部 人間科学科 | |
| 職 名 | | | 職 名 | 准教授 | |
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成29年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成29年度 年度末自己点検結果 |
| 教育・ 学生支援 | 0.40 | ①共通教育では、歴史的思考力の涵養をめざす上で、学生自らの主体的な取組ができるような内容を組む。②専門教育では、学生との対話を重視し、双方向授業および研究指導システムの構築を目指す。③学外の研究会や学習会等、学生に知的交流のできる空間を提供し、専門性の深化・コミュニケーション能力の向上を図る。④学生の希望する進路に応じたキャリア支援を進める。 | | 0.40 | ①共通教育「西洋の歴史と文化」を開講し、作業シートを活用するなどの工夫を行った。またその授業実践内容を『歴史と実践』(沖縄歴教協発行)第36号でまとめた。②ゼミを開講し、卒論指導を行った。③ゼミによる共同研究プロジェクトの一環として「石垣島のなかの世界史」を調査研究し、その成果を3月1日開催予定の佐賀大学との合同ゼミで報告する予定である。また、北海道の高校教諭を招へいし、「境界」からみた歴史実践」というテーマでの講演会をゼミの時間に開催した。④教員志望、公務員志望、大学院進学希望者に合わせた助言や情報提供を行った。 |
| 研究 | 0.30 | ①H28年度科学に採択された研究費若手研究(B)(研究代表者)および科研費基盤研究(B)(代表、喜納育江、研究分担者)の研究を継続して推進する。特に前者は、アメリカのグアム統治戦略を、土地接収政策の観点から分析するものであり、後者はグアムにおける戦争記念公園の建設をめぐる記憶の政治について研究を行うものとする。 | | 0.30 | 科研費若手研究(B)の成果の一環として、アメリカ学会(2017年6月)で研究報告した原稿をもとに、論文「第二次世界大戦後におけるアメリカ知識人のグアム認識」『人間科学』第37号を発表した。「トランプ政権の180日」をテーマとしたシンポジウムパネリストとして登壇した(2017年7月)。琉球新報書評欄(2018年1月28日付)や学術雑誌『国際政治』(未発行)にて書評を担当した。国際沖縄研究所における共同プロジェクト「島嶼地域科学の体系化」にも参加し、書籍WG統括として成果物の企画・編集を担当している。 |
| 社会 貢献 | 0.20 | 高大連携歴史教育の観点から、沖縄および全国の高等学校教員との交流および教育実践の収集・データベース構築に努める。 | | 0.20 | 高大連携歴史教育研究会会報編集委員長として、会報編集を担当した。全国とのネットワークは構築されつつあるが、沖縄県の教員との交流が課題として残っている。また、学内COCの一環である学生プロジェクトチームの指導教員として、地域貢献プロジェクトの企画について学生たちに助言を行った。 |
| 管理 運営 | 0.10 | 学生生活委員および教員養成運営委員としてその業務を責任もって遂行する。 | | 0.10 | 学生生活委員、教員養成運営委員、研究推進企画委員としてその業務を責任もって遂行した。 |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。 | |